

自転車 - この二輪の乗り物の起源は、19世紀のドイツに遡る。その前身は地面を足で蹴って進む玩具だったといわれている。

普段、自転車といえば単なる移動の手段としてとらえがちであるが、この発生当時の姿を思い出し、レクリエーションのひとつとして考えることによって、まちづくりに活かしていくことができないだろうか。

自転車は便利な道具である。徒歩より速く、自動車より手軽に乗れる。その反面、乗る者のモラルに頼らざるを得ない状況も多くある。

北九州市のサイクル事情はどうだろうか。駐輪場が少ないため、駅前等では歩道にまで駐輪自転車があふれている風景は日常的になっている。また自転車専用道路は存在しないため、車道と歩道のどちらかを通るしかないのだが、移動のスピードが全く違うため、危険をとまなうことが多い。特に小学生になる我が子と一緒に走ろうと思うと、頭を抱えてしまう。何よりも事故が恐ろしいのである。

このような状況の中でよく利用するのが、若松区の頓田貯水池にあるサイクリングターミナルである。ここには他の施設もあることから、駐車場が完備されている。車を預けて5分ほど歩けばターミナルに着く。

サイクリングロードは湖畔にそって周回しており、全長約5kmである。湖面の景色もよく、地形も適度に起伏している。途中には簡単な休憩所も数箇所あり、休み休み走ることができる。

1周を1時間弱で走り、2,3周回ることもある。車の乗り入れが規制されているため、子供と一緒にでも安心して走ることができる。

地図を広げて、北九州市内の他のサイクリングロードを探すと、八幡東区の河内貯水池と小倉南区の鱒淵ダムを見つけることができる。その間には畑貯地があり、いずれも街からのアクセスが比較的容易である。

河内貯水池には温泉と豊かな自然があり、レクリエーションの拠点のひとつとして整備されている。しかし小さな駐車場が点在しているだけで、大型駐車場がなく、サイクリングターミナルもない。行楽シーズンともなると駐車待ちの車で道路が渋滞し、快適に利用できる状況ではない。駐車場を整備し、敷地内に貸し自転車を200台収容できるサイクリングターミナルをつくってはどうかだろうか。

現在のサイクリングロードは、半分が自動車と競合しているため、風景を楽しみながらのサイクリングは難しい。湖面の方に張り出す構造でサイクリングロードを車道と分離する必要がある。

鱒淵ダム周辺もレクリエーションの場所として人気がある。サイクリングロードは、ふもとの集落にあるサイクリングターミナルを起点とし、およそ2km走ってダムにいたる。ここも河内貯水池と同様で、周回しているサイクリングロードの半分が自動車と競合しており、分離する必要がある。

駐車場は申し訳程度しかなく、湖畔道路に縦列駐車の手があふれ、通過車両・自転車・歩行者にとって危険な状態である。駐車場の整備は急務である。

鱒淵ダム付近には「菅生の滝」がある。車が離合することさえ難しい狭い幅員の道路であるため、混雑時のサイクリングは決して楽しいものではない。車道に沿って小河川があるので、やはり張り出し構造でサイクリングロードを完備してはどうかだろうか。

畑貯水池には、湖面に張り出した歩道が完備されている。この歩道を大型化し、サイクリングロー

ドを増設することが可能ではないだろうか。駐車場は点在している料亭の駐車場で充分間に合う。

畑貯水池から小倉南区へ「県道小倉・中間線」が福智山山系を横断している。このルートをサイクリングする人が多数いるが、山道で見通しが悪いうえ歩道もない。下りで速度を上げている自転車と車が同じ道路を走るのはあまりに危険である。

どの貯水池にも共通しているのは、サイクリングロードは車道と完全分離されてないということである。背後から迫ってくる車の恐怖と戦って走るようでは、レクリエーションとしてのサイクリングとはいえない。

また湖畔を周回するだけでは距離が短い。自転車で一日走れば、北九州市を全周できるのである。湖畔周辺だけでは物足りない。

そこで提案するのが、河内貯水池・鱒淵ダム・畑貯水池を三角形で結ぶ自転車専用道路である。いずれかに車を止め、そこを起点に一周できる道路であり、一方通行として自転車同士の事故を避け、途中にはトイレ・休憩所・展望台を設置する。

自転車専用道路は、幹線として舗装道路をサイクリング用に、支線として未舗装道路を設置してマウンテンバイク用とする。道路幅員は4mで2車線にわけ、一方は低速用・停車用に供し、もう一方は高速用とし、高速道路の追越車線の機能を持たせる。

また、この道路を利用してタイムレースのイベントを開催する。自転車競技は各地で開催されているが、一般道路を利用しているものがほとんどではないだろうか。カーレースはサーキットで行われ、自転車競技は自転車専用道路で行われることが好結果を生むと考えられる。

市民のエコロジーへの関心・健康志向により、移動手段のみではなく、レクリエーションとして自転車を楽しむ人々が増えていくのではないだろうか。それにともない安全で快適な自転車専用道路が求められる。

自転車専用道路網を整備することは「北九州市環境基本条例」にのっとりたものであり、環境未来都市を目指す北九州市の役割でもあると考える。

自転車をレクリエーションのひとつとして楽しめるような都市に私は住みたい。